

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ららぼーと富士見 立体駐車場棟増	階数	地上 5F
建設地	埼玉県富士見市山室一丁目1259番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,745 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2017年11月30日
敷地面積	152,056 m ²	作成者	宮本一郎
建築面積	3,709 m ²	確認日	2017年11月30日
延床面積	16,864 m ²	確認者	宮本一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺道路の混雑緩和のため立体駐車場の増築を計画し、来店車のスムーズな入庫を促進し、渋滞によるCO ₂ 排出の低減を図る。	その他 駐車場から既存店舗の2階・3階へ直接アクセスできるブリッジを設け、敷地内で車両と歩行者の交差を減らし、渋滞緩和を図る。	
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 建築基準法に定められた耐震性を有する。 部品・部材の更新必要間隔は標準な材料を採用する。	Q3 室外環境(敷地内) 既存の緑地は残す計画とした。
LR1 エネルギー 照明器具は全てLEDとした。	LR2 資源・マテリアル 発泡断熱材の使用なし。	LR3 敷地外環境 建物をできるだけ南側に寄せ、実日影が隣地に及ばないようにした。 建物の北面・西面は目隠しパネルを設置し駐車場からの光害を抑制した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
ららぽーと富士見 立体駐車場棟増床工事**

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
0 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				-	-	3.0	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	3.0	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				-	-	3.0	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	3.0	-	-
3.3 照度				-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				-	-	3.0	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能					0.43			2.7
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.8	0.50			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.3	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.22	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.22	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.11	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	0.22	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.22	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備				-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	0.50	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.50	-	-	-
5 通信・情報設備				-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			2.6	0.50	-	-	2.6
3.1 空間のゆとり			1.8	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			-	-	-	-	
2 給排水管の更新性			-	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.20	-	-	
4 通信配線の更新性			-	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.40	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.40	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 1.00	-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	1.00	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材の使用なし	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.0	0.50	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		雨水貯留槽について基準の1.2倍の量を確保	4.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		法的にはGL+1.5mにて境界線から5mまでは4時間、10mまでは2.5時間の規制に対し、GL±0mにて隣地に影を落とさない計画	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		適切な屋上照明照度、広告物照明なし	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	ららぽーと富士見 立体駐車場棟増床工事	BEE	0.8	BEEランク
------	---------------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
0.0	+	2.6	=	2.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	0.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	0.0
< 配慮した内容を記述 > ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な立体駐車場と同等			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 > 既存の緑地を残す計画とした。			

: 入力欄